

重要文化財指定までの経緯

理事長・院長 森 孝 一

2014年9月、神戸女学院岡田山キャンパスのウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計による12の建物が、国の重要文化財に指定された。文化庁の「報道発表」（平成26年5月16日）は、今回重要文化財に指定された9件の建造物のなかで、神戸女学院を「今回の答申における特筆すべきもの」として紹介し、指定について次のように記している。

美的均整の追求と実用への配慮を達成した大学キャンパス建築群（近代／学校）

神戸女学院 12棟

総務館、講堂及び礼拝堂、図書館、文学館、理学館、音楽館、体育館、葆光館、社交館、ケンウッド館、エッジウッド館、汽罐室、正門及び門衛舎
兵庫県西宮市

学校法人神戸女学院

神戸女学院は、明治初期にアメリカ婦人宣教師により開かれた私塾が始まるが、昭和8年に現在地に移転し、校舎を新築した。設計はヴォーリズ建築事務所による。各建物は、スクラッチ・タイルやS字瓦などで外観をスパニッシュ・ミッション風に統一しながらも、機能的に求められた空間の独創的な構成や、微妙に変化に富む細部の造形で個性を持たせるなど、美的均整の追求と実用への配慮が十全に達成されており、意匠的に優れている。

神戸女学院は、女子高等教育の理念の具現を目指して、大地の地勢や豊か

な自然との調和をふまえた合理的なキャンパス計画に基づき、平面計画も含めて完成度の高い統一感のある建物群で構成されており、昭和初期の学校建築として価値が高い。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

葆光館(ほうこうかん)は学内の通称では「中高部1号館」だが、指定に際しては、建築当時の名称を用いるので、この名称となった。汽罐室(きかんしつ)は、同窓会館とケンウッド館の間にあるボイラー室と煙突であり、かつては寮と宣教師住宅の暖房のために用いられていたが、現在は倉庫となっている。

指定の名称は「重要文化財 神戸女学院」である。「自然との調和」とあるように、自然景観も含めて、岡田山キャンパスのほぼ全体が指定の対象となつたと考えていいだろう。キャンパスそのものが重要文化財に指定されたのは、恐らく初めてのことであると思われる。

重要文化財指定という、神戸女学院にとって歴史的な出来事を、記録として後生に残すために、今回の『学院史料』は「特集」として重要文化財指定を扱い、2014年10月12日(創立記念日)に開催された「重要文化財指定記念講演会」の講演などを、追加修正を含めて、採録することにした。

講演記録の前に、時系列に沿って、今回の重要文化財指定までの経緯を以下に紹介する。

(2011年度)

2012年2月20日 山形政昭氏(大阪芸術大学教授)、今竹 翠氏(株今竹代表取締役社長)、石田忠範氏(石田忠範建築研究所代表)が森院長を訪問。森院長に対して、神戸女学院ヴォーリズ校舎の重要文化財指定を視野に入れ、調査報告書の作成を行うことが提案された。

3月8日 事前打ち合わせ(今竹氏、石田氏、院長、総務部長、経理部長)

調査報告書作成のための委員会と作業部会の設置について。

3月12日 学院常務委員会

神戸女学院岡田山学舎建築歴史調査(案)の理事会上程を承認。

3月23日 第1回神戸女学院岡田山学舎歴史調査委員会(以後、委員会)。

委員会、作業部会の設置、役割分担、今後の会合日程などを検討。

オブザーバーである兵庫県教育委員会から、指定発表以前にマスコミに報道された場合は、その時点で審議中止となるので、情報管理に注意するよう指摘があった。

委員会委員と作業部会の委員は以下の通り。

神戸女学院岡田山学舎建築歴史調査委員会

委員長： 森 孝一 (神戸女学院理事長・院長)

副委員長：山形 政昭 (大阪芸術大学教授)

委員： 飯 謙 (神戸女学院大学学長)

東松 道雄 (神戸女学院総務部長)

住野 秀樹 (神戸女学院経理部長)

井出 敦子 (神戸女学院院長室課長)

水野 敬子 (神戸女学院総務課長)

藤原 秀司 (神戸女学院施設課長)

安達 達 (神戸女学院施設課職員)

佐伯裕加恵 (神戸女学院史料室職員)

柴谷享一郎 (神戸女学院理事)

橋本恵里子 (神戸女学院理事)

今竹 翠 (㈱今竹代表取締役社長)

石田 忠範 (石田忠範建築研究所代表)

オブザーバー： 村上 裕道(兵庫県教育委員会文化財課課長)

西川 卓志(西宮市教育委員会文化財課課長)

福原 成雄(大阪芸術大学教授)

(株)竹中工務店

(株)一粒社ヴォーリズ建築事務所

神戸女学院岡田山学舎建築歴史調査作業部会

部会長：山形政昭

今竹 翠、石田忠範

総務部長、経理部長、院長室課長、総務課長、施設課長

施設課担当職員、史料室担当職員

3月28日 理事会

委員会が設置されたことが報告され、山形氏に委員会委員を、今竹氏、石田氏にコンサルタントを委嘱することを承認した。

(2012年度)

2012年度中に、3回の委員会と5回の作業部会、3回の編集会議が開催された。

『報告書』の各章は委員会の委員が担当し、2012年度を通じて執筆を進めた。

4月26日 文化庁訪問

山形氏と東松総務部長が文化庁を訪問し、文化庁文化財鑑査官の大和 智氏、主任文化財調査官の長尾 充氏と面会。

文化庁側から、あくまでも申請を受け付けるのではなく、文化庁が一方的に指定するものであること、ヴォーリズ建築の評価が高まってきているので、良い時期であること、マスコミには取り上げられないように細心の注意をすること、アメリカのキャンパス・デザインとの比較やリベラル・アーツ教育との関連性を報告書に入れるように、などのアドバイスをいただいた。

8月21日～31日 景観調査

大阪芸術大学福原成雄教授とゼミ生による景観調査を実施。

9月9日～23日 森院長訪米。

米国各地の大学を視察。

(2013年度)

4月1日 2013年度から、委員会の構成員は学内者のみとした。

4月3日 『神戸女学院岡田山キャンパス 建築歴史調査報告書』(291頁)70部が河北印刷より納品された。

目次と執筆者は次の通り。

『神戸女学院岡田山キャンパス 建築歴史調査報告書』

口絵写真

はじめに (森 孝一)

目次

序章 概説 (山形政昭、東松道雄)

- 1 神戸女学院学舎建築の概要
- 2 都市景観形成建築物、登録文化財認定など
- 3 建築物歴史調査の目的と経緯
- 4 主要資料

第1章 アメリカにおけるキャンパス・デザインと高等教育の理念 — 岡田山キャンパスへの影響 — (森 孝一)

第2章 神戸女学院のキャンパスの沿革 (佐伯裕加恵)

2-1 神戸女学院の沿革

2 - 2 神戸女学院岡田山キャンパス

第3章 岡田山キャンパスの環境と建築

3 - 1 キャンパスの構成と総合的特色 (石田忠範)

3 - 2 キャンパスの歴史的建築 (石田忠範)

3 - 3 キャンパスの近年の建築 (石田忠範)

コラム1 図書館本館の螺旋階段とハケット氏 (井出敦子)

コラム2 彫刻「像を彫る」 (水野敬子)

コラム3 宣教師館について (佐伯裕加恵)

3 - 4 岡田山キャンパスの景観にみる特色 (福原成雄)

第4章 特色と価値 (山形政昭)

4 - 1 ヴォーリズ建築事務所の建築としての岡田山キャンパス(概要)

4 - 2 ヴォーリズの履歴と建築活動

4 - 3 ヴォーリズ建築事務所におけるミッション・スクールの建築

4 - 4 神戸女学院の建築作品的位置

4 - 5 日本近代における歴史的キャンパス

4 - 6 まとめ — 本学院キャンパスの特色と価値

第5章 維持活用について (藤原秀司)

5 - 1 保全管理

5 - 2 環境保全

5 - 3 防火・防災

資料

1 神戸女学院略年表 (佐伯裕加恵)

2 資料紹介

2 - 1 学院史 (佐伯裕加恵)

- 2 - 2 『神戸女学院新築記念帖』（佐伯裕加恵）
- 2 - 3 神戸女学院新校舎建築の要素
- 2 - 4 THE ARCHITECTS' STATEMENT
- 2 - 5 THE KOBE COLLEGE PLANT from the Architects' Point of View
- 2 - 6 参考文献（佐伯裕加恵）
- 3 古写真（井出敦子）
- 4 神戸女学院主要学舎現況写真（山形政昭、石田忠範）
- 5 神戸女学院主要学舎設計図面
- 6 神戸女学院主要学舎現況図面

4月4日 文化庁の長尾 充氏宛、『報告書』を送る。

7月12日 文化庁より、視察の意向が伝えられる。

10月30日 文化庁主任文化財調査官の長尾 充氏による視察。

兵庫県教育委員会の村上氏、田中氏、西宮市教育委員会の西川氏、俵谷氏、山形氏、今竹氏、石田氏が同行。

長尾調査官より、キャンパス全域の指定を考えたいとの希望が伝えられる。

3月7日 文化庁主任文化財調査官の長尾 充氏による視察（2回目）。

兵庫県教育委員会の田中氏、西宮市教育委員会の西川氏、俵谷氏、山形氏、今竹氏、石田氏が同行。

（2014年度）

4月10日 2014年4月1日付で、文化庁主任文化財調査官に就任した上野勝久氏による視察。

担当者交代のため、キャンパス全体を再視察。

4月25日 文化庁の第二専門調査会で指定が内定。

5月9日 マスコミへの事前記事の提供が、文化庁よりなされた。しかし報道については、テレビは16日夕刻より、新聞は17日朝刊より報道解禁。

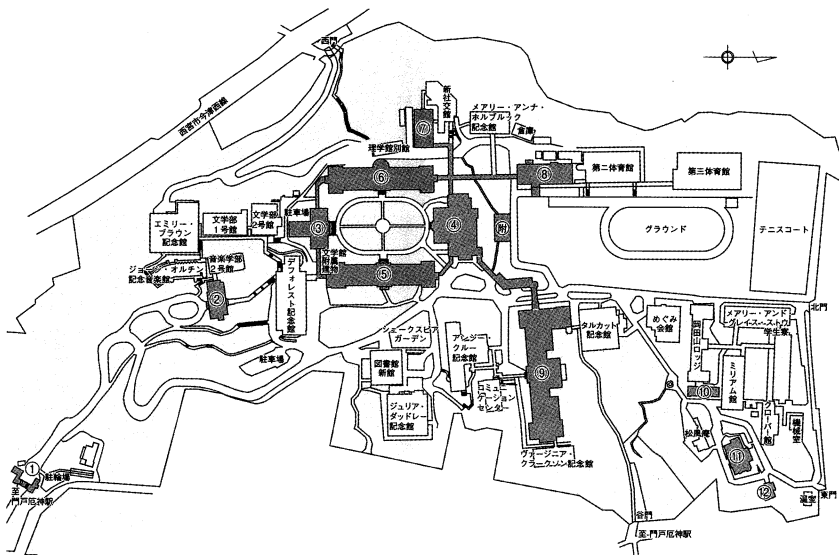
5月12日～16日 マスコミによる事前取材を受ける。

5月16日 文化庁文化審議会文化財分科会から、ヴォーリス設計による神戸女学院岡田山キャンパスの12棟を、重要文化財に指定する旨、文部科学大臣に答申が出された。

名称は「重要文化財 神戸女学院」。

同日、夕刻のテレビ各社のニュース、新聞各紙の翌日朝刊で報じられた。

9月18日 『官報』（号外第207号）に重要文化財指定が掲載され、これをもって正式の指定となった。



神戸女学院のヴォーリス建築（国指定重要文化財）

- | | |
|----------|------------|
| ① 正門・門衛舎 | ⑦ 社文館 |
| ② 音楽館 | ⑧ 体育館 |
| ③ 図書館 | ⑨ 葆光館（中高部） |
| ④-1 総務館 | ⑩ パーゴラ |
| ④-2 講堂 | ⑪ 汽罐室と煙突 |
| ④-3 礼拝堂 | ⑫ ケンウッド館 |
| ⑤ 文学館 | ⑬ エッジウッド館 |
| ⑥ 理学館 | |